

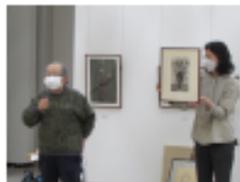
「高島仁 回顧展」の様相



4月29日（全・祝日）

ギャラリートークが開催されました。あいにくの大雨にも関わらず大勢の方々が参加いたしました。実行委員で仁先生の教え子でもある中村石浄氏・山田和夫氏による、作家の人柄からうかがえる作風や交流などを知ることができました。時折笑い声も聞こえる心温まるひとときでした。高島仁作品独自の線の積み重ねによる「群集表現」の面白さを堪能しました。

5月29日まで



友の会会長 千田敬一氏

ここに障がいを持つ作家の一枚の絵がある。

公募展では原則 Quality が高い作品が入選や受賞の対象になり、表現に障がい者と健常者の壁は無いと思っていた。

だがカミジヨウミカさんから「障がい者アートの公募展では入賞していましたが、一昨年くらいから障がいとは関係のない公募展に応募し始めて、ありがたいことに何点か入賞しました」という絵葉書もらった。

「おめでとう」と思う前に、ミカさんが乗り越えてきた忍苦と道程を思うと胸が痛む。

地球上では、いまだに多くの差別が続いている。ウクライナの自然や人心を素朴な筆致で描き、国民の心の支えになっていたマリア・ブリマチェンコ（1908～1997）の作品を収蔵していたキーウ郊外のイワンキフ歴史地方博物館がロシア軍に破壊された。人の心を護る美が、戦争という差別行為の防壁となりますように。



おまちかね 6月4日～

次回開催「カミジョウミカ展2021+1 ～芋虫のような手指で描く自分～」

学芸員丸山による みどころPOINT

カミジョウミカさんは世界に5人しか例のない遺伝子疾患のため、日常生活には介助が必要です。当然、作品を制作する時間も限られます。それでもミカさんは昨年の展覧会がコロナで延期となっても休むことなく作品を作り続けました。

とても可愛らしいミカさんの手を「芋虫のような」とは言いますが、もくもくと地道な作業を根気強く繰り返して、いつの間にか見事に仕上げている一途さの例えにもなっているのだらうと思います。

本展では、絵を描き始めるきっかけとなった約25年前の似顔絵から今年の最新作まで展示します。一人の作家で100点以上の展示は朝日美術館初ですし、発想も作品もユニークでバラエティに富んでいますので、会場では圧倒されること間違いありません。

ぜひご期待ください。

作品の一部を覗いて観ましょう♪

某ある旅の家族 2018

あさひ学芸員の 学び

4月、5月と来館してくれた彼は春日佑仁（ゆうじん）くん。伊那の高校2年生です。縄文時代が大好きで地元で研究を行っている彼は村内で、1、2分で黒曜石を見つけ出しました。



縄文むら公園付近を探索

径3.5cmほどの黒曜石



注意 
土器片などを探す際は周辺の方の迷惑にならないようルールを守りましょう

好きの思いと情熱と、黙々と繰り返す作業、黒曜石のようにキラキラな瞳に「初心」を忘れないと改めた学芸員青木でした。

編集/発行 朝日美術館
〒398-1184
長野県東筑摩郡朝日村古見1388
TEL : 0263-99-2359

さまざまな情報やお話をお聞かせください
mail : bijyutukan@go.tvm.ne.jp

Let's go to the museum.
Museum of history and folklore

